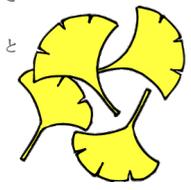


万九千社 立虫神社

社報

神戸の郷



第六〇号 平成二十九年神在月
「発行」十一月吉日 代宮家 (錦田)

今季の祭 その一

万九千さん

全国では神無月とよばれる旧暦十月を出雲地方では神在月と呼び慣わしています。日本中の八百万神が、出雲へ参集されると伝えられるからです。私たちがお護りする万九千社では、神々が神議りの締めくく

りと直会なほらひを催し、明くる日の早朝、諸国へとお帰りの旅立ちをなさると伝えてきました。まもなく日本中の神様が、私たちの住まいするこの土地のお宮へとお越しになります。皆様おそろいでお参り下さい。

十一月

二十六日(日)
二十七日(月)

早朝から日没まで

一、神在月

特別祈願祭

出雲国にお集まりの全国八百万の神々の御神徳を称え、特別祈願祭を行います。名物の植木や刃物、海産物などの露天商による市が開かれます。

今年から神前にて、個々人の

来年の吉兆を占

い、昇殿の上、玉

串拝礼いたたく

「神在みくじ」の

御祈禱を行います

す。神在みくじ、御祈禱札、この祭り限定の御神酒「からさでの梅酒」を授与致します。稲作の吉凶を占う特殊神事「御種組」もこれまでどおり行います。



十二月四日(月)

早朝

※旧暦の十月十七日にあたります

一、龍神祭、

お忌み入り

龍蛇りゅうじやさまを先導役とし八百万神を斐伊川でお迎えする祭です。古くから、宮司一人が人知れず行う秘儀とされ、夜明け前に

斐伊川の水辺で行います。

水辺での神事が終わると、宮司は神籬（神々の宿られる榊の木）に遷られた神々を万九千社へと御案内します。そこで、神迎えの祝詞を奏上し、当社はお忌み入りとなります。

「お忌み」とは、神々の滞在や会議を邪魔しないように、忌み慎んだ祭事や生活をする事を言います。



龍神祭、神迎えの様子

（撮影 中野晴生氏）

十二月十二日

（火）

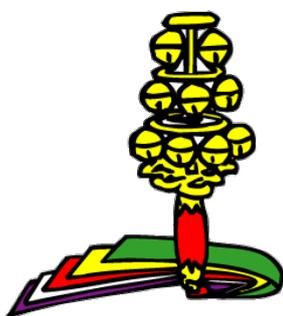
※旧暦の十月二十五日にあたります

一、前夜祭

戸を閉ざした社殿内で宮司ほか数名が奉仕し

明日の神等去出祭を前に、宮司ほかの奉仕者が神社に布団を持ち込んで一夜を過ごす、お籠もりの神事も行います。

これには、神々のおそばで忌み籠もること、心身の清浄を極め、霊魂を鎮める意味もあります。



十二月十三日

（水）

※旧暦の十月二十六日にあたります

一、大祭

午後五時〜

湯立神楽（ゆだてかぐら）

午後六時〜

神殿祭

神等去出神事（かからさいで）

万九千社にとっては、一年で最も重要な祭儀です。

今年からは、明治時代以来途絶えていた「湯立神楽」を復興し、神さまの旅立ちを前に、神々と人々の前途、祭場、祭員、参拝者にまつわる全てのモノ、

コトを清々しく祓い清めます。

その後、神殿祭を行い、たくさんのお供え物をして会議の締め括りと直会（なおらい）をなさる全国のさまを静かに厳かにおもてなしします

日没頃には、神々に明朝未明の旅立ちの時間が近づいたことをお告げする神等去出神事を行い、今後も全国の人々の幸をお守りいただくべく御祈念します。

宮司が、神殿の御扉を梅の小枝で叩きながら、「お立ち、お立ち、お立ち」と三度唱え、神々に出発が近いことをお知らせして神事を閉じます。

こののちは、神のみぞ知る時間と空間です。神々の直会が始まるのです。私たち人間は、神々の邪魔をしないようにと、一斉にその場から立ち去らねばなりません。

今季の祭 その二

十二月十四日

（木）

午後二時より

一、万九千社

あとまつり

一、立虫神社

新嘗祭

兼社殿改築工事着工奉告祭

万九千社から神々が無事に旅立たれたことを寿ぐあとまつりに合わせまして、今年収穫されたお米をはじめとする新穀を万九千社と立虫神社の神々にお供えする新嘗祭を齋行します。

宮司が祝詞を奏上して、農業



はもとより諸産業繁栄の感謝を申し上げ、人々の幸福と弥栄を祈念します。

また、この日は念願の立虫神社社殿（中殿、拝殿）改築整備工事を始めるにあたり、整備委員会役員、設計監理者、工事を請負う宮大工の棟梁などが揃って参拝し、着工を奉告し、これまでの社殿に宿られる御魂に感謝の誠を捧げます。そして、工事の安全と立派な竣工をお祈りする着工奉告祭も併せてお祭りします。

当日は、氏子各戸へ万九千社、立虫神社、伊勢の神宮の三体の御札と御洗米を授与しますので、お正月に向け各家で大切にお祭り下さい。

※※お供え、お米当番の方は、午後一時までに、神社参集殿へお供えのうえ御参拝下さい。

（文責 宮司 錦田剛志）